

## カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類コ ード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	根 こ ぶ 病	根 く び れ 病	べ と 病	白 さ び 病	軟 腐 病	黒 腐 病	白 斑 病
アミスター20FL	11		7	2				◎			◎
メジャーFL	11		1	3				◎			
オラクル顆水	21		*a	2	◎						
オラクル粉	21		*a	2	◎						
ライメイFL	21		3	3				◎			
ランマンFL	21		3	3			◎	◎			
			*c	1	◎						
フロンサイド粉	29		*b	1	◎						
ネビジン粉	36		*b	1	◎						
ネビリュウ粉粒	36		*a	1	◎						
ヨネボン水	M1		7	4			◎		◎	◎	
ダコソイル粉	M5		*a	1	◎	◎					
ユニフォーム粒	4・11		*a	1				◎			

\*a:播種前 \*b:播種又は定植前 \*c:播種時

カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ナ モ グ リ バ エ	カ ブ ラ ハ バ チ	コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ダ イ コ ン ハ ム シ
スピノエース顆水	5		1	3	◎	○										
エスマルクDF	11A		*c	-									◎			
オルトラン粒	1B		21	1	◎									◎		
ジェイエース粒	1B		21	1	◎											
ダイアジノン粒5	1B		*a 45	1 2										◎		◎
ネキリエースK粒	1B		30	2										◎		
マラソン乳	1B		14	4	◎	ハ	ハ	◎		◎						
アディオソ乳	3A		1	2						◎						
ガードベイトA粒	3A		3	4										◎		
フォース粒	3A	劇	*b	1												◎
アクタラ顆溶	4A		1	3	◎											
アクタラ粒5	4A		*b	1	◎											
アドマイヤー顆水	4A	劇	21	2	◎											
アドマイヤー1粒	4A		*b	1	◎											
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		3	2	◎											◎
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*b	1	◎											◎
ダントツ溶	4A		3	3	◎											
ダントツ粒	4A		*b	1	◎											
モスピラン顆溶	4A	劇	21	1	◎			◎								◎
ディアナSC	5		1	2					◎	◎		◎				
アニキ乳	6		1	3					◎							◎
アフーム乳	6		3	2					◎							
コテツFL	13	劇	1	2			◎		◎		◎					
ハチハチ乳	21A	劇	7	1	◎		◎		◎				◎			◎
アクセルFL	22B		3	2					◎	◎						◎
フェニックス顆水	28		1	2					◎				◎			
プレバゾンFL5	28		1	3					◎							
プロフレアSC	30		1	3					◎	◎		◎	◎		◎	◎
ブレオFL	UN		3	2								◎				

\*a:出芽時 \*b:播種時 \*c:発生初期(但し収穫前日まで)

ハ:商品によりハモグリバエ又はナモグリバエで登録

カ  
ブ

## カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生地では次のいずれかの薬剤を土壌混和する。 オラクル顆粒水和剤 150～300g/100 ℓ/10 a ダコソイル粉剤 20～40kg/10 a (作条) ネビジン粉剤 20kg/10 a (作条) 30kg/10 a (全面) フロンサイド粉剤 30～40kg/10 a (全面)</li> </ul>	近年、抵抗性品種が開発されている。また、ダイコンではほとんど被害を見ない。
白さび病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の薬剤を施用する。 ユニフォーム粒剤 9kg/10a</li> </ul>	白さび病は6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多い。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 密植を避け、排水、通風を良好にする。</li> <li>2. 雨よけ栽培を行う。</li> <li>3. 発生初期に次の薬剤を散布する。 ランマンフロアブル 2000倍</li> </ul>	
	収穫期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害株や収穫後の残渣はていねいに処分し、畑にすき込まないようにする。</li> </ul>	
炭疽病	生育期および収穫期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白さび病に準じた耕種的防除を行う。</li> </ul>	炭疽病は7～9月の気温の高い時期に、特に発生が多い。
黒腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベットをやや高目のカマボコ型にし、排水をはかる。</li> </ul>	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生前から次の薬剤で予防する。 ヨネポン水和剤 500倍</li> </ul>	
アブラムシ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等での有翅虫の着生を防止する。</li> <li>2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍</li> </ul>	モモアカアブラムシは5～6月と8月下旬～11月に発生が多い。 ニセダイコンアブラムシは9月に急増し、初冬まで発生が続く。
ハモグリバエ・ナモグリバエ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 防虫ネット(目合い0.8mm以下)等を利用した被覆栽培で、成虫の飛来を防ぐ。</li> <li>2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤<sup>#1</sup> 5000倍 ハチハチ乳剤<sup>#2</sup>△ 2000倍 マラソン乳剤<sup>#3</sup> 1000倍</li> </ul>	<p><sup>#1</sup>ハモグリバエ類での登録</p> <p><sup>#2</sup>ナモグリバエのみでの登録</p> <p><sup>#3</sup>商品により、ハモグリバエ又はナモグリバエで登録</p> <p>△薬害を生じる恐れがあるので、幼苗期には使用しない。</p>

## カブ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カブラハバチ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	ニホンカブラハバチとカブラハバチが主な種で、春と秋に発生が多いが、一部は夏にも発生する。
コナガ	生育期	1. 寒冷紗等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 広範な地域で設置可能であればコナガコン◇を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a 又は20cmチューブを200本/10a 設置する。 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 ハチハチ乳剤△ 2000倍	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 覆下栽培では冬季でも幼虫の加害が見られる。 ◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 * 野菜類での登録 △被害を生じる恐れがあるので、幼苗期には使用しない。
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクセルフロアブル 1000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 ディアナSC 2500～5000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT* 1000倍 エスマルクDF* 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 サブリナフロアブル* 1000倍	5～6月と9～11月に発生する。若齢期は下の葉裏にかたまっているため薬剤をていねいに散布する。老熟幼虫は薬剤が効きにくい。 *野菜類での登録
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	生育期	1. 寒冷紗等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF 1000倍 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 ハチハチ乳剤△ 2000倍	夏が高温乾燥のとき多発する傾向がある。生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *野菜類での登録 △被害を生じる恐れがあるので、幼苗期には使用しない。
キスジノミハムシ	生育期	・発生が多いときには、発芽直後から次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍	粘土質地帯で発生が多い。 幼虫は土中で根を食害する。 成虫は葉に小孔をあけて網目状にする。

カ

ブ